

農と醸造発酵の技術活用によるユートピア 一ノ蔵農社だより No.28

<平成 21 年作付け決まる>

今年の水稲作付け品種は、「蔵の華」、「トヨニシキ」、「ササニシキ」、「まなむすめ」、早生新品種の「やまのしずく」(詳細はひとくちメモにて)の合計 5 品種。水稲の作付面積は合計で約 6ha で、昨年とほぼ同じ面積です。

特に「やまのしずく」については、毎年 11 月に発売の新米新酒『本醸造しぼりたて生原酒』に使用するため地域で一番早く植え付けます。「トヨニシキ」は『大崎の米で仕込んだ純米原酒 一ノ蔵』の仕込みに使用される予定です。また、一ノ蔵「信頼醸成頒布会」の『山麩仕込み純米大吟醸』は、農社が栽培した「蔵の華」だけを使用して仕込んだ、昔ながらの山麩(やまはい)造り大吟醸です。

また、今年もNPO法人環境保全米ネットワークと共同で水稲の栽培実験を実施し、今回は除草剤を使用と不使用の田んぼの生き物比較調査なども予定しています。

転作部門では、長ナス、ソバ、大豆の栽培も予定しています。栽培した長ナスは例年通り 7 月頃から浅漬けに加工、販売する予定です。ソバは地元松山の酒ミュージアム“華の蔵”(一ノ蔵が指定管理者制度で管理運営)にて『地そば』として販売する予定です。



春耕うんの様子

<水稲部門>

1. 田んぼの肥料散布

肥料を散布する作業機械としては一般的にブロードキャスターが用いられています。ブロードキャスターは作業スピードが速く効率は良いのですが、一方施肥した場所が目視しにくい散佈ムラが得意やすいという欠点があります。その難しさはベテラン農家でさえも手を焼くほどです。

農社ではブロードキャスターばかりではなく、ライムソワーも用いています。ライムソワーはゆっくりと丁寧に散布することができ、散布した場所を把握しやすいのでムラが少なくすみます。作業スピードが少々ゆっくりであることを除けば本当に便利な農機具です。

農社では米ぬかか鶏糞を混合して田んぼに施し元肥としていますが、米ぬかは粉状のためライムソワーでそっと田んぼに落とさないと風で簡単に飛散してしまうため、少しでも風がある日のブロードキャスターでの作業は御法度です。

2. 苗代準備

苗を育てる場所のことを苗代と言います。農社では苗の葉っぱが2枚出た頃、苗代に水を張り、プールのような環境で苗を育てています。これをプール育苗と言いますが、そうすることで好気性の菌類が繁殖できず、農薬を使わずに苗を育てることができます。



農社のプール育苗

プール育苗を行う際に水平が保てないと、水に沈む苗もあれば水に浸からない苗もあるという状況になり兼ねません。今年は早めに苗代かきを行い、しっかりと地面が固まってから苗箱を並べました。現在育苗中ですが、病気も発生せず健全に生育しています。



効率の良いブロードキャスター



丁寧に施肥できるライムソワー



苗代かきの様子

3. 社員研修を兼ねた種まき

農社では、3月26日に県内でも早い種まきを行いました。この日まいた品種は「やまのしずく」という早生品種で(詳細はひとくちメモにて)11月に発売予定の新米新酒「本醸造しぼりたて生原酒」の原料米になる予定です。

一ノ蔵では「一ノ蔵型六次産業」の実現を目指す経営方針があり、全社員が一ノ蔵で目指している農業を理解するために、この日も様々な部門から積極的に研修に参加しました。みなさん農作業の経験がほとんどなく、農作業のひとつひとつが新鮮だったようです。

種をまいた苗箱は重く、育苗ハウスに運搬して、丁寧に3列ずつ並べますが、この苗箱並べ作業が実は結構大変です。



他部署社員との作業



丁寧に並べる

<ナス部門>

1. ボカシ作り



ボカシの攪拌

ナス栽培では農社特製のボカシを作り、これを唯一の肥料として使用、化学肥料は一切使用しておりません。

材料は、精米時にできる米ぬか、濾過した時に使用した珪藻土、種麴菌(もやし)のもやし殻、鶏糞、ボカシ用種菌、水です。これらをよく攪拌しシートで覆います。堆積期間に中心の温度が60℃以上になった時点で切り返しを行います。何度か切り返し後、高温発熱期が過ぎて全体が白っぽくなって乾き、常温になった時点(約1ヶ月)で完成です。

2. ナス植え付け準備

4月にトラクターで畑を耕し、農社特製のボカシをすき込みました。耕うんを行うことで土壌中に空気の層を作って、好気性微生物の活動が活発になることで、土壌中の有機物分解を促進させる効果があります。さらに耕うんによって畑の通気性と透水性が向上し、ナスにとってより良い環境を作り上げることができます。



トラクターでの耕うん作業

耕うん終了後は畝(うね)立て作業です。畝立て機で土を盛り上げていき、スコップやレーキで所定の高さや幅に整えていきます。その後、灌水チューブを設置し、その上からシルバーマルチをかけて植え付け準備作業無事終了です。ちなみにシルバーマルチを使用している理由は、アブラムシの発生を抑制する効果があるとされているからです。

ナスの定植作業は4月24日に行い、約450本の苗木を定植します。今年も仙台長ナスを丹精込めて栽培し、浅漬けとして今年7月初旬頃発売予定です。その味付けには一ノ蔵の純米酒を隠し味として使用します。どうぞご期待ください。

<JA 松山支店 婦人部農産加工講習会>

農社では長ナスの浅漬け加工を行ってきましたが、その他にも地元の農産物を昔ながらの方法で加工した特産品づくりに取り組みたいと考えています。そこで、今回はアイデア豊富な女性の皆さんから知恵をお借りしようということで3月25日に、地元松山のJA婦人部農産加工講習会に参加させて頂きました。



懇談会の様子

講習会後の懇談会では、婦人部の皆さんから昔ながらの漬け物の漬け方や、地元の漬け物名人の情報、調理レシピなど、沢山のご提案を頂きました。今後も婦人部の皆さんと交流・情報交換しながら、共同で松山の特産品づくりを進めてまいります。

<櫻井会長が“国会”で農地法改正案について意見陳述>

衆院農水委員会は4月21日、農地法改正案についての参考人質疑を行い、櫻井会長が参加。

<櫻井会長発言趣旨>

今回の改正は的確で、原則賛成の立場だ。ただ、農業はやりがいがあると思える施策が伴わない

限り、後継者は育たず、耕作放棄地が増えるのは間違いない。農産物価格の安定の点からも生産性に応じた農家や法人への所得補償制度の実施が必要だ。

参入法人の立場から利用の規制緩和を望むが、所有は、農家への補償制度が確立しない間は、強い規制が必要だ。

懸念は、正しい運用を行えるのかという点だ。きめ細かでの確な運営と農業委員会の機能強化が求められる。農協の営農指導ともかかわることであり、農業委員会と連絡を密にして農協中心の理想的な面的集積の構想を推進することも一案だ。（「日本農業新聞」4月22日版2面）

<農地制度の基本を「所有」から「利用」に再構築>

(2月24日衆院に提出された農地法等改正案の主な改正点)

1. 農地法の目的の見直し

- ①農地を耕作者みずからが所有することを最も適当であるとする考え方を、農地の効率的な利用を促進するとの考え方に改める。
- ②農地について所有権、賃借権等の権利を有する者はその適正かつ効率的な利用を確保しなければならない旨の責務規定を設ける。



肥沃な松山の農地は田植えの準備中

戦後の農地解放で、地主から国が農地を買収し小作農に売り渡し、自作農を創設し、70年の改正で自ら耕作する者でなければ取得できないという耕作主義へと変わった。今回の「農地を効率的に利用する者」とは、必ずしも「自ら耕作する者」を意味せず、農地を効率的に利用する者ならば、自ら耕作する者でなくても良い。また、農地の権利を持つ者に、農地を適切かつ効率的に利用しなければならない義務も負わせている。

2. 農地転用規制の見直し

- ①食糧生産に必要な農地面積を確保するため、農地転用の規制を強化する。現在国や都道府県による農地の転用は全て許可が不要だが、今後は病院や学校、社会福祉施設、庁舎などの建物は許可権者である都道府県知事等との協議が必要になる。
- ②企業など新規参入では「適正に利用しない場合には契約を解除する」との条件を付けた賃借に限り、農作業常時従事や農業生産法人の要件を求めないように緩和する。企業に所有権を渡すのは危険としても、賃借なら不適正が生じても取り消しや指導で、原状回復をさせればよいとの考え方に基づくもの。



農社転作田の遅い雪中麦

3. 農地の権利移動規制の見直し

企業などの新規参入が地域の担い手との競合を招くのではとの懸念には、その場合には農業委員会が許可しないとの要件を新たに設ける。

4. 遊休農地対策の強化

遊休農地対策では、現行の市町村が指定したものから全ての遊休農地を対象にした有効利用を徹底する。農業委員会による毎年1回の農地の利用状況調査を義務付け、遊休農地の所在を明確にする。（参考：農林水産省(21年2月)、全国農業新聞）

<ひとくちメモ「やまのしずく」とは？>

古川農業試験場で育成された水稻の新品種「やまのしずく」は平成18年に宮城県の奨励品種として採用され、現在は七ヶ宿町を中心に栽培されています。田植えから穂ができるまでの期間が短い早生(わせ)品種で、山間高冷地に適する品種です。これまで早生品種として作付けされていた「こころまち」の代替品種となるものです。名称の由来は、作付け普及見込み地域のひとつである七ヶ宿町の稲作農家グループで発案されたもので、山間地の清冽(せいれつ)な水が育んだ良食味米の魅力を消費者に届けたいという想いが込められています。（宮城県古川農業試験場 HP より <http://www.faes.pref.miyagi.jp/>）

